令和５年４月２４日

「令和４年度学校関係者評価委員会提言書」を受け次年度に向けた改善方策

世田谷区立二子玉川小学校
校　長　　今福　　眞和

令和４年度学校関係者評価委員会からの提言書に課題として指摘された内容について、それらへの対応と来年度の方針、方策を区の施策や本校から区に届け出た教育課程と関連させて以下のようにまとめました。

１　学習指導について

児童アンケートでは４設問中、ほぼ８５％を超える肯定的評価となっている。昨年度よりも項目によっては減少しているが、安定した評価を得ている。一方、保護者アンケートの肯定的評価は、７０％前後であるが、前年度よりも上昇傾向にある。コロナ禍にあって感染症対策のための制限をかけたが、学校公開等を可能な限り実施してきたことで、学習指導について実際に参観できたことが反映していると考えられる。引き続き制限を緩和した学校公開を実施していきたい。

「映像やタブレットを活用しての分かりやすい授業」項目の肯定的評価は児童が８５％、保護者が６７％とタブレットを使用した授業が定着してきている。

一方、「子どもが考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある」の項目は９２％と高い水準を維持している。協働した学びのスタイルも定着してきている。このことからも、タブレットも活用しながら自分の意見をもち、友達の意見に耳を傾けて、自ら見出した学習課題を解決していく探究的な学びの実践を継続していきたい。

〇授業力の向上を目指す

・校内研究では令和５年度は昨年度より継続して「探究的な学び」の実践を研究テーマに掲げ、キャリア・未来デザイン教育の実践を図る。教員同士が意見を出し合い、考え話し合うことで、児童の実態に即した指導法を日々の授業実践につなげていく。
・観察授業、年次研修授業、分科会の提案授業をすべてオープン参加とし、教員同士が相互に授業を見合う場を増やす。切磋琢磨し指導法の改善を図り授業力を向上させていく。
・校内 OJT の充実を図る。職員会議後の OJT タイムなど、短時間でも指導方法や教材教具、授業プランや効果的であった実践の紹介などを行う。
・世田谷小学校研究会の授業を積極的に受け、自己の能力を向上させるとともに、校内で授業公開し全教員の学ぶ機会を提供する。
・学習規律及び学習環境を整え、児童が学びに向かう意欲を高める。

〇新たな教育課題への対応

・区 ICT インフルエンサーによる伝達講習を定期的に実施する。タブレットをはじめとする ICT

活用を積極的に行うことができるように、スキルを教員一人一人に身に付けさせる。
・英語教育の推進、低学年からの英語活動、ALT の効果的な活用、英語支援員の活用。
・人権教育につながる特別の教科「道徳」の授業の充実。

2　生活指導について

生活指導に対する評価は、児童、保護者、地域ともに昨年度に引き続き高評価を維持している。特に児童アンケートにおいては、すべての設問において肯定的評価が８５％を超えている。本校には「二子玉川小学校４つ約束」という明確な指針がある。常に指導する側の教職員も、指導を受ける側の児童もこの約束を意識させていく。

保護者に対して「生活指導だより」を月１回程度発行し、学校での生活指導を周知し、学校で取り組んでいる生活指導について積極的に伝え、保護者の協力を得る協働体制をつくっている。地域アンケートからは「交通ルールを守っている」の項目の評価が１０％ほど下がっている。いつも登下校を見守っていただいている地域の方々からのご意見として真摯に受け止め、児童自ら安全に気を付ける意識をもたせていく。

〇生活指導を通して、自ら考え行動し改善に努めることができる児童を育成する。
・「二子玉川小学校 4 つの約束」の意識化
人に親切にする　うそはつかない　約束（ルール）を守る　勉強（仕事）をがんばる
以上の 4 つの約束を日常生活の行動指針として常に意識して行動できるように指導する。
〇人権意識を身に付け、お互いを大切にしあう気持ちを醸成する。
近年は度東京都人権尊重教育推進校として教員自身が人権教育を学び、児童への指導を実践しているので、学校全体としてお互いを大切にしあう風土が確実に定着している。取組を継続する。
・児童の気持ちに寄り添うとともに、いじめなど社会的に許されない行為については毅然とした態度で指導を行う。
〇家庭と地域と連携しながら社会に貢献する意識をもった子どもを育てる。
・PTA と学校運営委員会と連携し、ボランティア活動やゲストティーチャーを招いたキャリア教育の充実を図る。学校、家庭、地域の三者が協働して児童を育む。

3　学校行事について

宿泊行事や３年ぶりに発表形式の行事となった学習発表会は、コロナ禍で制限をかけるものの、できる限り従来の形での実施に努めた。行事に関する児童、保護者の肯定的評価は高い。特に保護者の行事項目はいずれも９０％を超える。児童の姿が映る学校行事を心待ちにしてきたことが分かる。地域の肯定的評価は７５％ほどであった。入場に制限を加えたり、来賓の参加を見合わせていたりした影響がある。令和４年度の卒業式から従来通り来賓を招待しているので、今後も地域の方々を学校の教育活動に招いていきたい。

4　キャリア教育について

キャリア教育についての周知が不十分だったり、その視点が十分に生かされていなかったりする

ことで、昨年度同様、保護者アンケートの評価に「分からない」と答えた割合が３０％を超える結果になった。地域の特色を生かしたプロジェクト型の学習や、ゲストティーチャーを招いたキャリア授業が実践され有意義な活動になっている。児童アンケートでは７０％台を維持していることからも児童の目標や将来についての意識は高い。本年度は世田谷版基礎的・汎用的能力が示されたことからも、これまでの実践を継続するとともに、キャリア教育としての視点を明確にした教育活動として定着させていく。また、保護者への周知も学校だよりやホームページを活用し、より丁寧に説明を行い、キャリアについての保護者の理解を深める努力をしていく。

5　教職員について

「先生たちは丁寧に指導している」の項目の肯定的意見は児童アンケート約９割、保護者アンケートは約８割を毎年維持している。多くの教職員が教育活動に熱心に取り組んでいることが評価されたことはありがたい。

「相談のしやすさ」については、児童、保護者ともに７割台であるが、この評価は上げていかなければならない。特に児童からの肯定的意見の向上は、最優先課題である。常日頃から児童に寄り添い、対話することによって一人一人の子どもたちを理解し支援していく。保護者についても、保護者会や個人面談はコミュニケーションを深める機会である。共に育てるという姿勢のもと、信頼を高めていく。

6　学校生活全般について

学校生活の楽しさについては、児童、保護者ともに９割近い評価を維持している。しかし「学校生活は楽しい」の項目は、常に１００％を目標とする意識をもちたい。挨拶運動や中学校訪問の機会が復活し、児童の学び舎の項目は肯定的評価が大幅に上昇した。一方、保護者は４０％台と低く、どのような活動があるのかを含めて保護者への情報提供の検討し、継続的な取組を進めていく。

7　学校からの情報提供について

学校だより、ホームページ等の改善を進めてきた。情報提供の４設問中、２設問において８０％台の安定した評価を得ている。学校行事や学校公開の実施から児童の様子が分かることについては３０％近くの上昇が見られた。令和５年度はできるだけ制限をかけない形での学校行事や授業参観を実施し、児童の姿や様子が分かるように努めていく。

8　学校運営について

保護者アンケート「重点目標を伝えている」の項目は７割程度であった。継続して「笑顔と元気と優しさがあふれる学校」を目指していくことを児童、教職員、保護者、地域、共通の目標として意識できるように教育活動を実践し、発信していくことを心掛けていく。

9　学校と家庭の連携について

「私は学校公開にすすんで参加している」が前年度より２０％近く肯定的評価が上昇している。学校

公開への関心の高さが伺える。「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」も４％と微増している。近年は上昇傾向を保っており保護者に積極的に参加していただいている。「私は、今年度の学校重点目標を理解している」は 48.8%となっている。重点目標を分かりやすく明確に周知していくことが課題である。

１０　地域との連携について

３つの設問ともに肯定的評価が上昇している。地域は学校の教育活動に協力的であり、教育的資源も豊富である。従来の地域行事に戻る中、教育効果の高い地域との活動が実施できるように、これまでの取組を整理していく。

１１　学校の安全性全般について

学校の安全性や子どもたちの安全に関する項目は８０％台と一定の評価を得ている。避難訓練に臨む児童の姿はいつも真剣である。一方、自然災害時の対応については７０％であり、地域防災組織を確立していくことは重点課題と捉えている。地域との連携が必要とされるため、保護者、地域との連携をさらに深めていく。

１２　充実した授業について

「本校では、子どもたちが楽しいと感じる授業が行われている」の肯定的評価は１０％以上上昇している。その評価をしっかりと受け止め、努力を継続していきたい。一人一台のタブレット導入後、タブレットを活用した授業の頻度や児童の活用場面は増えているが、充実した授業の本質は授業の内容にある。常に教員の授業力向上を目標とする。自ら学ぶ力の育成のために、子どもが学ぶことの楽しさを実感できることを目指す。

１３　学校経営方針について

令和４年度より、学校、地域、家庭が同じ方向を向けるように「笑顔と元気と優しさがあふれる学校」を目標にしてきた。アンケートには具体的に「笑顔と元気と優しさがあふれる学校」を知っているという項目を立てたが保護者の認知度は６５％であった。しかしこの数字は悲観したものではないと捉えている。３人に２人は認知していただいている。一方児童同じ項目は８７％と浸透していることが伺える。令和５年度より「ウェルビーイングの向上」を学校経営方針に加え、保護者等で周知する。今後さらなる保護者、地域の理解と共感を得られるように発信していく。

１４　学校生活の充実について

「本校の子どもたちは、あいさつや返事をしている」についての肯定的評価は保護者７７％、地域８９％と安定した評価を得ている。人権尊重教育推進校からの継続した取組の成果である。あいさつは人間関係の基本となるので継続した取組を実施していく。児童の「学校生活は楽しい」の項目は８７％であったが、この項目は常に１００％を目標にしなければならない。児童のウェルビーイングの向上を常に意識した取組を実践していく。

１５　地域運営学校の取り組みについて

「みんなで地域の子を育てている」の項目は７２％で安定した評価を得ている。クリーンタウン作戦、ハナミズキフェスティバル、大山みちフェスティバルなど、地域商店街や地元企業との連携も盛んな地域である。キャリア教育との関連も考慮し、子どもたちが自分の学校や地域に愛着をもつことができる教育活動の実践に努めていく。

１６　特色ある教育活動について

本校の特色ある教育である愛鳥活動やクリーンタウン作戦等の地域学習の肯定的評価は、保護者８９％、地域１００％と、ほぼ上限の評価を得ている。その他にも二子玉川の立地を生かした、多摩川での水辺の活動や、プロジェクト型学習として参加する地域のフェスティバルでの活動など、本校の特色ある教育活動は、保護者、地域からも支持され、評価されている活動であることが分かる。その一方で「子供たちの豊かな心の育成に役立っている」の設問に対する肯定的評価は、保護者７６％、地域１００％と大きな開きがある。コロナ禍により活動が制限されてきたが、体験的活動は児童の心の育成に大きく関わってくる。これまでの取組と実践をもとに、世田谷区が目指す「キャリア・未来デザイン教育」の視点ももたせながら、本校の特色ある教育活動の充実を図っていく。